

平成30年度  
都立図書館のニーズに関する実態調査  
報告書

平成31（2019）年2月

東京都立中央図書館



# 目 次

1	調査概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象・調査方法等	1
(3)	調査項目	1
(4)	本書の編集方針	2
(5)	本書の見方	2
2	全体の調査結果	3
(1)	回答者の属性	3
①	回答者の属性	3
②	回答者のユーザータイプ分け	6
(2)	メディアの利用状況、情報の取得状況等	7
①	各メディアの情報に対する信頼度	7
②	調査手段としての媒体の利用状況	15
③	日常的なメディア・機器の利用頻度	17
④	メディアの情報に対する「信頼度」と日常的なメディア・機器の「利用頻度」	30
(3)	図書の入手方法と身近な図書館	34
①	図書の入手方法	34
②	身近な図書館の有無と利用状況	36
③	身近な図書館を1年以内に利用していない理由	40
(4)	都立図書館の利用状況等	42
①	都立図書館の利用状況	42
②	都立図書館を1年以内に利用しなかった理由	50
③	非来館型サービスの利用状況	54
3	潜在ユーザーの調査結果	60
(1)	都立図書館の認知状況、都立図書館の機能の認知状況	60
①	都立図書館の認知状況	60
②	区市町村立図書館との役割分担	62
③	都立中央図書館と都立多摩図書館の機能分担	64

(2) 興味・関心のあるイベントの分野	66
(3) 充実・強化を希望する事項（図書等資料、サービス、施設・設備）	68
① 図書等資料	68
② サービス	70
③ 施設・設備	72
4 まとめ～潜在的利用者層へのアプローチの視点と方法～	74
(1) 都立図書館の認知状況から	74
(2) 都立図書館を1年以内に利用しない理由から	76
① 都立中央図書館	76
② 都立多摩図書館	76
③ 女性のニーズの把握	77
(3) 充実・強化を希望する事項（図書等資料、サービス、施設・設備）から	78
① 図書等資料	78
② サービス	79
③ 施設・設備	80
(4) 設問間のクロス集計分析	81
① 身近な図書館の有無と都立図書館の認知状況	81
② 図書の入手方法と都立図書館の利用状況	82
③ 各メディアの情報に対する信頼度と都立図書館の利用状況	85
資料編	
1 その他記述まとめ	91
2 単純集計表	95
3 単純集計表（潜在ユーザー抽出）	107
4 調査票（画面イメージ）	119
5 調査票（リスト形式）	134

# 1 調査概要

## 1 調査概要

### (1) 調査目的

本調査は、都立図書館の潜在的利用者層のニーズを調査し、求めるサービスや資料群、今後期待する図書館像等について把握し、その結果を今後の都立図書館の運営等の改善のための基礎資料とすることを目的とする。

なお、分析・とりまとめに際しては、特に、都立図書館を利用したことがない方や、過去に利用していたが現在は利用していない方の実態や意向の把握に重点を置いた。

### (2) 調査対象・調査方法等

調査対象：インターネット登録モニター内の16歳以上の都内在住者および都内に通勤・通学する者

サンプル数：3,500件

割付：性別は男女均等とし、年齢は10歳代から70歳代以上までを均等に割付をした。

都内在住者と都内への通勤・通学者は比率が4：1になるように割付をした。

調査方法：Web アンケート（まず予備調査《スクリーニング》にて、登録モニターの中から調査対象者を抽出し、その後、本調査を実施し3,500件のサンプルを回収した。）

調査期間：平成30年11月22日（木）～11月28日（水）

サンプル割付：

		16歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	計
東京都内在住	男性	200	200	200	200	200	200	200	1,400
	女性	200	200	200	200	200	200	200	1,400
都内に在勤・在学	男性	50	50	50	50	50	50	50	350
	女性	50	50	50	50	50	50	50	350

サンプル回収数：

		16歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	計
東京都内在住	男性	45	355	200	200	200	200	200	1,400
	女性	200	200	200	200	200	200	200	1,400
都内に在勤・在学	男性	48	52	50	50	50	50	50	350
	女性	50	50	50	50	50	50	50	350
総計									3,500

※10代男性のモニターの回答数が少なかったことから、全体で大きな偏りがないよう、直近の20代に割り付けた。

### (3) 調査項目

- ・メディアの利用状況、情報の取得状況
- ・図書の入手法
- ・身近な図書館の有無と利用状況
- ・都立図書館の認知状況、都立図書館の機能の認知状況
- ・都立図書館の利用状況
- ・都立図書館を1年以内に利用しなかった理由
- ・非来館型サービスの利用状況
- ・興味・関心のあるイベントの分野
- ・充実・強化を希望する事項（図書等資料、サービス、施設・設備）

### (4) 本書の編集方針

本調査結果の分析に際しては、サンプル全体（3,500 件）の意識やニーズを把握するとともに、都立図書館の認知状況と利用状況に関するパターンからユーザーを分類（P6 ユーザータイプ分け参照）し、各ユーザータイプの意識やニーズを把握した。

その結果、潜在ユーザーが約 98%を占め、サンプル全体と潜在ユーザーのみの分析結果に大きな違いがなかったことから、本書は、潜在ユーザーの意識やニーズの分析結果を中心にした内容構成で編集した。

### (5) 本書の見方

- ① 集計は、小数点第二位を四捨五入しているため、数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- ② 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出しているため、複数回答の設問については、全ての比率を合計すると 100.0%を超える場合がある。
- ③ nは、基数となるべき実数であり、設問に対する回答者数である。
- ④ 「-」は回答者がいないことを示す。
- ⑤ 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- ⑥ クロス集計のグラフ内割合表記において、紙面の制約上省略しているもの（0.0%、2.0%未満など）がある。
- ⑦ クロス集計による分析に際して、nが20未満の場合は代表性を失うため、分析対象外としている。